

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEIF函館		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校、施設、公園での屋外、屋内にてサッカーを中心に運動療育を行うことができる	サッカーはもちろん、バスケットやバレーボール、卓球、野球等、様々な運動種目も療育内容に含めている。	雨天、冬期時の運動療育会場を確保し、体を動かせる環境をつくっていく。
2	学校休校日を中心に季節にあったイベント、外出イベント、調理イベント等、利用児童が楽しめる企画を実施している。	利用児童が飽きないイベントを毎月考え、運動以外の体験も経験できるようにしている。	新しいイベントを企画していく。 その結果、新たな経験を重ね、成長や課題の解決となる療育に繋げていく。
3	集団活動での学び合いが多く、出来る子が出来ない子へ教え、高学年が低学年へ教える環境を作っている。	全体で取り組む活動の中でグループ、チーム分けを行う場合は、学年ごとではなく、学年を混ぜてグループを決め学び合える環境を意識して作っている。	グループリーダーを担えるように、どの子にも中心になって発言、行動ができる機会を与えてあげる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	時期により活動場所が制限された際の事業所内療育方法	運動療育を行う際、学校、児童館、民間施設をお借りしているが、季節や天候によって使用有無が左右されてしまうこと。	新たな療育会場の確保。
2	運動嫌いの子や運動能力の課題がある子への支援	運動が苦手な子に対して、全体での運動時の支援方法、個別対応ができていないこと。 運動能力に課題がある子に対して、集団での活動では、試技回数が減ってしまうこと。	個別対応を中心に、簡単なことから段階を踏んで挑戦させていき、できることを増やしていく。
3	職員の個別対応、保護者対応に偏りがある。	どの職員でも同じ対応ができることがベストではあるが、それができず、児童の気持ちを左右させてしまったり、保護者へ影響を与えてしまっている部分がある。	成功事例、対応方法の助言を行い、職員教育、指導を行っていく。